企画・制作 神奈川新聞社クロスメディア営業局

KU 世界へ、そして未来へ 神奈川大学

INTERVIEW

神奈川大学創立90周年企画 理事長×学長 神大を語る　地域に貢献し、グローバル社会に向けた人材育成を目指す

90th ANNIVERSARY SINCE 1928

開かれた「知の拠点」。今、そして未来へ

本年5月、神奈川大学（横浜市神奈川区）が創立90周年を迎えた。1928年の創立以来、多くの人材を輩出し、横浜の開かれた「知の拠点」としてその存在感を発揮してきた。現在、次のステップである新立100周年に向けたさまざまな取り組みが進行されている。その中心プロジェクト・神奈川大学「みなとみらいキャンパス」が、2021年4月開設に向けて具体的に動き出し、7月30日には建築工事が行われた。世界に開かれた国際人の育成を目指す、国内外から集う知の交流拠点がいよいよ現実のものとなる。同大学の歩み、そして未来に向けてのビジョンや夢を牧内良平理事長と、兼子良夫学長に語っていただいた。

（文中敬称略）

聞き手・原貴枝（フリーアナウンサー）

創立100周年を目指して進化を

学校法人 神奈川大学
牧内 良平理事長

まきうち・りょうへい　早稲田大学政治経済学部卒。元・テレビ神奈川社長・会長、神奈川新聞社専務、神奈川県共同募金会会長、神奈川県日本赤十字社協会会長、神奈川県ゴルフ協会会長、横浜交通安全協会会長、春野本部合同慰霊碑会会長などを歴任。2017年9月より現職。2012年、旭日小綬章を受章。

新キャンパス開設に向けて

―理事長に就任して一年が過ぎました。感想をお聞かせいただけますか。

牧内　神奈川新聞社とテレビ神奈川で30年以上も勤めたのでいろいろと分かっているつもりでしたが、昨年9月、突然、理事長に任ぜられ、青天の霹靂の思いでした。

でも、考えようによっては、日本の大学が厳しい状況の中、本学は、100年の節目という、「みなとみらいキャンパス」の建設計画の進捗など、時代を先取りしていかなければならない状況にあり、理事長就任を責任は重大だと痛感する一方で、大いにやり甲斐のある仕事だと思っています。

みなとみらいキャンパスは、規模は、縦横の長さ半分の2017年4月、正野孝一郎理事長時代にみなとみらい21地区40街区を横浜市の公募で取得したことから、スタートしました。基本設計を進めると同時に、市とのさまざまな折衝を経て、本年7月に起工式、そして10月の着工にこぎつけたわけです。夢のようなスピード感でした。

―「みなとみらいキャンパス」ですが、地元から大変注目され、期待されていますね。

牧内　まずは、地元の方々に、「神奈川大学がこの地域にあるのだ」と、ご理解いただくことが、大切だと思っています。

―神奈川大学にとっての「グローバル人材」というのは、どのような人材でしょうか。そのためにどのようなことを考えておられますか。

兼子　これからの人材は、「共生力」に寛容力、つまり多様な価値を理解してイノベーション（革新）を起こす力、新しい知見を世界に発信する力が必要だと思います。

さらに、現在世の大学は、IT・AI（人工知能）などの新技術を駆使した、オンライン社会になって国際学生寮、「夜間」の大学も新設されています。これらの時代を生き抜くには、「混沌」を経験していくことも大切です。これらの時代に、本学が誇る世界的な学術研究所である「日本常民文化研究所」の活動を通じ、日本、とりわけ日本の歴史や環境を考え、人類の未来を供する高度な人材を育成していきたいと考えています。

―神奈川大学にとっての「グローバル人材」とは、どのような人材でしょうか。

牧内　本学には、横浜キャンパスのほか、湘南ひらつかキャンパス、可児キャンパスがあります。これまで、横浜キャンパスは、横浜市内の学校である中山キャンパスと、湘南ひらつかキャンパスの二つでしたが、可児キャンパスは、横浜キャンパスとは、ビジネスの観点から、「人材」を育てるという、明確な目的を持ったキャンパスです。

―「みなとみらいキャンパス」の概要ですが、広さは8,434平方メートルの土地に、高さ約100メートル、地上21階建て、地下1階、延べ面積が約7万平方メートルの建物を建設するという。学生数は、4万人の学生を収容できるので、完成は2年後の2021年1月、開設は翌年4月を予定しています。

設置する学部は、みなとみらい21地区というエリアに、新たに国際的な人材を育成するグローバル系の3学部を集約します。具体的には、新たに設置する「国際日本学部（30名定員）」、「経営学部（150名定員）」、「国際経営学部（150名定員）」の3学部を集約します。

また21世紀は国際日本学部を中心とする「総合人文学部」、「国際経営学部」、「経営学部」、「国際経営学部」、「国際経営学部」、「国際